

水循環文化研究発表会講演集原稿作成要領

(1) 原稿

論文集の印刷は、A4版原稿をそのままB5版に縮小して印刷しますので、ワープロを使用して作成し、原稿ファイルを電子メールに添付してお送りください。なお、プリントアウトを郵送していただいても構いません。

(2) 原稿枚数

本文・図表・写真などを含めて、**6ページ**までとして下さい。なお、6ページを越える場合であっても極力ページ数が増えないよう配慮願います。

(3) 書式（【原稿例】参照）

- ① A4版用紙を使用して、本文の文字の大きさは原則として10.5ポイント(3.4mm)、横書きで1行45字×1ページ39行程度として下さい。
- ② タイトル、著者名、概要、英文 abstract は、別紙【原稿例】の書式を参考に、できるだけこれに沿った原稿を作成して下さい。
- ③ 図・表・写真などは、原稿に直接挿入、記入されるか、片面のメンディングテープで貼り付けて下さい。(カラーの写真や図は白黒印刷となります。)
- ④ 図表・写真番号は、図-1…、表-1…と付け、図表のタイトルも記載して下さい。(図・写真タイトルは、図・写真の下、表タイトルは表の上に)
- ⑤ 論文集の編集・印刷の都合上、原稿の各ページ右上枠外に原稿枚数とページ(○/○)および連絡先となっている著者名を必ず記入して下さい。
- ⑥ 和文原稿の後に英文でタイトル、著者、abstract を作成願います(可能な方のみ)。
- ⑦ 英文で作成の場合は、和文タイトル、著者名、所属、和文概要を英文原稿の後に付けて下さい。

(4) 原稿の取扱い(原稿郵送の方)

- ① 原稿に折り目が付かないように厚紙などに挟むようにして下さい。
- ② 原稿の紛失事故など万一に備え、原稿のコピーをとっておいて下さい。

(5) 原稿の送付先；下記の本会事務所宛に、電子メールまたは郵送にてご送付下さい。

=送付先= NPO 法人日本下水文化研究会 事務局

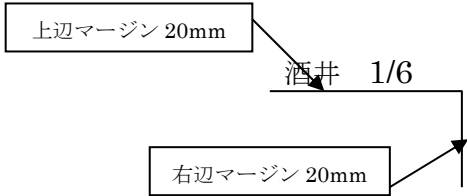
〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1 第3東ビル710号室

TEL 03-5829-5843

e-mail jade@jca.apc.org

(6) お問い合わせ先：本会事務所宛まで電話またはe-mail をお願い致します。

※ 【原稿例】はあくまで原稿書式の参考例であり、文字の意味はありません。この書式にできるだけそうようにご配慮ください。



特に断りのない書体は明朝体 10.5pt.

水環境汚染問題のリスクマネジメント

約 15mm のスペース

右辺マージン 20mm

約 15mm のスペース

ゴシック, 16pt.

酒井 彰¹ 甘長 准²

約 5mm のスペース

¹ 流通科学大学 ² NJS

約 10mm のスペース

10pt.

10mm 程度余分のマージン

例えば、東京の都市河川を眺めてみよう。普段は心細い限りの流れなのに、夏の雷雨時にはみるみるうちに増水し、今にも溢れんばかりとなる。ときには、甚大な浸水被害をもたらす。このようないつもは貧弱でありながら、ときに凶暴にもなり得る河川が、多くの人が生活する密集市街地を流れていること自体、考えてみれば異常なことである。しかしながら、多くの都市生活者は、この異常な状況を普段認識していないようである。

10mm 程度余分のマージン

約 5mm のスペース

キーワード：環境汚染リスク、水循環、流域管理、震災、リスクマネジメント

約 10mm のスペース

10pt.

1. はじめに

ゴシック, 12pt.

本稿では、「雨」に関する言葉やことわざを考察することによって、私たちの生活と雨との関わりがひとつの文化様式を形成していることを確認する一方で、現代都市生活者の関わりの実態との乖離を明らかにし、再び接近させるためには、何が必要かについて考察する。

2. 下水文化研究会とは

私たちは、言葉でものを「感じ」、「考え」、人と「コミュニケーション」を図り、言葉によって「喜び」、「悲しみ」、そして「あこがれ」や「あきらめ」などを表現する。したがって言葉とは、ある種の文化的存在である。

一行空け(以下小見出しの前同様に)

2-1 下水文化研究会の発足

都市生活者の意識をもたらした理由については、さまざま考察できようが、本来私たちの生活にさまざまな恵みを与えてくれていたはずである「雨」との関わり方があまりに希薄になりすぎたのではないだろうか。

参考文献引用番号=引用箇所の上肩に

一行空け

見出しは以下の番号を付け、ゴシック体でいずれも頭下げしない。

1.	12pt.
1-1	10.5pt.
(1)	10.5pt.

(1) 下水道百年史の編集メンバー

雨がもたらす効用や楽しみを忘れ、雨から感性を育まれることもなく、そして、雨がもたらす危険やリスクを認知することもできなくなってしまっていると言えないだろうか。

(2) 正式な発足

左辺マージン 20mm

1992年設立総会を開催し正式に発足した。下水文化研究会当時の主な活動内容は、次のとおりである。

下辺マージン 25mm

- ① 定例会と臨時会での下水文化に関する講演、それにもなう討論や情報交換を行った。
その内容は機関誌「下水文化研究」第1号から第4号に発表されている。

6. おわりに

本稿では、ひとつのことわざ辞典を基にことわざを抽出したに過ぎず、それぞれのことわざについても大まかな意味から分類したに過ぎない。本稿で敢えて行なった分類を行なううえで、解釈の誤りも少なくないかもしれない。もっと、国語学的、文学的に解釈を詰める必要があるかもしれないが、これらは、筆者の能力を越えている。

一行空け

10pt.

【参考文献】 ← ゴシック、10pt.

- 1) 酒井彰：都市河川「の特性と水質汚濁対策」第14回京都大学環境衛生工学研究会シンポジウム講演論文集，pp.120-125，1992
- 2) 酒井彰：下水道施設への影響が懸念される製品一下水排水管理に求められる視点，第2回下水文化研究発表会講演集，日本下水文化研究会，1993

約 15mm のスペース

Management of Rainfall Related Environmental Risks in Urban Area

約 5mm のスペース

Akira Sakai¹ Kunio Takahashi² Kan Chowai³

約 5mm のスペース

¹University of Marketing and Distribution Sciences
²Japan Association of Drainage and Environment
³NJS Co.,Ltd.

約 5mm のスペース

Abstract: Rainfall brings urban residents both blessings, such as water resources, and inundation risk. Recently, it is recognized that wet weather flow discharges pollutant load and transfer chemicals and pathogen bacteria into aquatic ecosystem. Furthermore, these risks have similar background concerned with urban structure and life-style of urban residents. In this paper, the authors will summarize resembling and different points of these risks. In addition, risk management process and control options of rainfall related risks will be discussed.

Key Words: *risk management, inundation risk, environmental pollution risk, wet weather flow management*

英文書体は、Times new roman あるいは century で(参考例は Times new roman)
 Title: 14pt. Author(s): 10pt. Affiliation(s): 10pt. Abstract: 10pt. Key words: 10pt の大きさで、
 “Abstract”の文字は Bold、“Key words”の文字は Bold & Italic を使用。また、各キーワードもイタリック(斜字体)で。

10mm 程度余分のマージン

10mm 程度余分のマージン